

# 月にみがきて



更級小学校だより

No. 9 H27. 12. 14

## 3分間マラソン日本一周達成!!

本年度、重点活動として取り組んできた3分間マラソンが11月30日で終了しました。雨や行事等でできない日もありましたが、5月8日から6ヶ月間あまり走ってきました。全校児童で走った距離を合計すると、6705kmとなり、日本一周(設定距離6042km)を達成することができました。



始めた頃は、子どもたち一人一人が「今日は3週走るぞ」「昨日より1ポイント多く走ろう」(1周4ポイント、各コーナー通過で1ポイント)というような自分の目標をもって走っていました。しかし、暑い時期には“中だるみ”となったり、マンネリ化したりして、走る意欲がやや低くなっていました。そのような子どもたちに、11月になって次の事実を伝えました。

- 10月までに全校で走った距離の合計が4916km(長野→東北→北海道→東北→北陸→山陰→九州→山陽)で、広島に到達し、日本一周まであと1126kmであること。
- 3分間マラソンは11月30日までであること。
- 一人あたり6km走れば日本一周達成となり、そのために一人一人が毎日校庭3周以上走る必要があること。

これを知った児童は、走る意欲を高め、力強い走りとなりました。中には、登校したら走る子や3分間マラソンの後も走る子がいました。学級でも目標を掲げて取り組みました。その結果、全校で日本一周を達成することができました。

### 《子どもの日記から》

- 今日はうれしいことがありました。マラソンカードが5枚目になったことです。11月の目標は4枚目の3kmでした。でも、4枚目の3kmなんて楽に超しちゃって5枚目に行けました。来年もあつたら、5枚目を超して7枚目ぐらいまで行きたいです。  
(4年生)
- 今日、3分間マラソン最終日でした。みんなで2km走れば北海道なので、みんなで10周以上走ろう!ということになりました。最後に楽しく走れてよかったです。あきらめない力がたくさん身についたと思います。これからもたくさん走りたいです。  
(5年生)



この3分間マラソンでは、次の3つをねらいとしていました。

- ①走る力をつける。
- ②苦しくても最後まであきらめずやり続ける力をつける。
- ③あきらめずやり続けたことから自己肯定感を高める。

子どもたちは「あきらめない心」と「やり続ける力」を身につけました。この力を学習や生活の様々な場面で

発揮し、よりよい自分をつくっていくとともに、さらに継続して取り組む力を高めてほしいと思います。冬は全校で3分間縄跳びに取り組んでいます。

# 自分も友だちも大切にできる子どもに ～人権参観日より～

11月26日(木)に行いました人権参観日に大勢の保護者の方にお越しいただき、ありがとうございました。人権について学ぶお子さんたちの様子はいかがだったでしょうか。各クラスとも子どもたちの実態に合わせて人権の学習を行いました。 【5年生の車椅子体験】

授業参観の後、人権学習会が行われ、長野県人権啓発センターの柳澤民子先生の講演をお聴きしました。前半は、子どもたち向けに「大切な自分大切なみんな」、後半は、保護者向けに「子どもと大人のいい関係」と題してのお話でした。

〈各学年の学習内容〉

- 1年生：「じぶんのことすきだよ」
- 2年生：「色鉛筆を忘れちゃった」
- 3年生：「ちがいのちがい」
- 4年生：「友だちのこと・自分のこと」
- 5年生：「わたしと車いす」
- 6年生：「白いからす」



保護者向けの講演では、具体的な例を挙げながら次のようなお話をさせていただきました。

- ・「関心をもたれている」「大切にされている」「認められている」「理解されている」「愛されている」と感じたときに、子どもは力を発揮する。
- ・「何かあったときに相談する」関係ではなく、「いつでも相談できる」関係や 環境を築いておくことが大切。
- ・子どもの話をよく聴くポイントは、「繰り返す」「言い換える」「気持ちを汲み取る」である。子どもが自分の気持ちを出したときに、よく聴き受け止めてあげることが大切。



なかよし集会で、「なかまづくりゲーム」をした後、ある担任の先生が「ゲームを始めるとき、どんな気持ちで始めましたか？」と問いかけました。すると、ある子がさっと手を挙げ、「一人になってしまった人がいたら、その人と仲間になろうと思っていました」と発表しました。このような他者を大切にできる、心根の優しさをもっと伸ばしていきたいと考えています。

## 地域の方々に支えられて



地域の方を講師としてお招きして行ってきたクラブ活動が12月4日(金)の反省会をもって終わりました。反省会で、講師の皆さんから次のような評価をいただきました。

- もっと知りたいと言ってもらえてうれしかった。
- 技術を身につけようと、学ぶ姿勢が前向きだった。リーダーを中心に一体となって練習し、記録を伸ばすことができた。
- もう少し大きな声で会話ができるとうい。

12月になり、本年度も和田美徳さんに書写指導をいただいています。和田さんは、子どもたちに書くポイントを説明した後、一人一人の作品を観て、「強く書けていいね。」「ここは少し斜めにするといいよ。」など、具体的なアドバイスを下さっています。子どもたちは一枚書くと、和田さんが観てくださるのを待っています。和田さんから誉めいただくと、うれしそうに次の一枚へと向かっていく子どもたちです。

このように、地域の方々に講師となっただくことで、子どもたちの力は大きく伸びます。今後も、音楽での和楽器演奏やふるさと学習、花の苗植えなどで地域の方々のお力を借りて進めていく予定です。

〔文責 塚田直道〕